

在校生のメッセージ

1年クラス委員 堀田 駿介

私からの現在の生命科学科の紹介

鳥取大学生命科学科第31期生の堀田駿介です。私からは現在の1回生の様子について紹介させていただきます。

現在、1回生は湖山キャンパスで教養科目や専門科目を学んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響で、教養科目のほとんどがZoom等を利用したリアルタイム授業か、録画された授業を視聴するオンデマンド方式になっています。また、1年次の目玉であろう大学入門ゼミの大山合宿も中止となってしまいました。しかし、対面授業で行われている専門科目などの機会に交流し、一緒に学生会館などで課題を進めたり昼食をとったりしている様子が見られます。まだまだ感染症対策に気を抜けないですが、今後、もっと交流を深められればと思います。

1年クラス委員 山口 玲奈

私からの現在の生命科学科の紹介

新型コロナウイルスにより、多くの人々が今までとは違った日常を送っていると思います。特に今年大学へ入学した私たち一年生は、新生活早々、困難を伴うことが多かったように思われます。

しかしながらこういう事態の中、この学科に入学できたことはとても意味のあることだと前向きに感じるがありました。ある講義で、生命科学科の教授による新型コロナウイルスについての学問的なお話を聞いたときのことで。見方を変えればこのような世界的混乱を巻き起こすウイルスや世界を、今私たちが生でみて体験できていることが貴重なことであるというご意見は、私の新型コロナウイルスに対する見方を変化させてくれました。このような考えを自分で持つことができるようになりたいと思うと共に、これからの講義や研究室での活動がとても楽しみになりました。



2年クラス委員 足羽 光一

私からの現在の生命科学科の紹介

生命科学科の2年次では医学や生命科学を幅広く学びます。

生命科学科の各研究室分野の概論を学ぶ講義では、自分にとっておもしろいと思える研究分野を探しながら、研究に対するイメージをより具体的にすることが出来ます。

生化学や細胞組織学、生理学などの医学科と合同で受ける講義では、人体の機能や仕組みを学びながら、それらの複雑さや微細さに驚かされることが多くあります。そして、生命科学と医学の接点を探ったり、生命を科学することの意義に気付かされたりします。

より多くの刺激を受け、知的好奇心が高まるのを実感しながら、将来の研究活動へのモチベーションを高めています。

2年クラス委員 佐伯 華蓮

今後の生命科学科に望むこと

生命科学科の使命は基礎医学における研究者を育てることですが、一般的には認知度が低いと思われる。基礎医学は人体の構造や機能の研究であり、臨床医学に備える学問です。私はこの基礎医学研究の重要性を多くの人々に理解されることを望んでいます。研究者たちは病気になるメカニズムを知ることやその病気の治療法を究明することで患者さんを助けることにつなげていかなければなりません。基礎医学—すなわち未来の医学—を学び、この先の医療に大きな革新をもたらすことこそが生命科学科の重要な役割であり、使命に繋がると考えています。

3年クラス委員 川武 早希

今後の生命科学科に望むこと

はじめまして、いかがお過ごしでしょうか。現在(2020/10/20)生命科学三年生として免疫学の実習や生体情報学のセミナーに勤しんでおります。レポートも多く学ぶ内容がディープになる中、サークル活動にも精を出し、そろそろ精神が逝かれそうです。最近と同サークルの保健学科の同期と将来の話をして盛り下がります。彼らはまだ将来が安定している方だと思うのですが、我々生命科学科出身の者たちはやはり不安なのです、将来が。何か一つ、確信が得られるだけで良いのです。例えば資格化している技術・知識を学ぶもしくは卒業までに何かの認定を得るなど、学科長、学部長に掛け合ってみてくださいませんか。勝手な望みではありますが、せつかく医学部に所属した生命科学科で学ぶのですから、将来も関わっていきたくと思います。

3年クラス委員 鳥村 藍瑠

私からの現在の生命科学科の紹介

こんにちは。生命科学科 29 期の鳥村です。現在、我々3年生は4年次の研究室配属に向けて実習を行っています。実習では、研究をするにあたって必要となる技術や知識を学んでいます。生命科学という分野は、近年、特に iPS 細胞が世間に発表されて以来、とてもメジャーになってきたように感じます。数年前と比べて、生命科学分野の研究がより広く認知されるようになってきました。医学に基づく生命科学の研究を学部生からできることが鳥取大学医学部生命科学科の特色であると考えており、この強みを生かして今後の医学・生命科学研究を牽引していける研究者をさらに増やしていくことができるような学科になることを望みます。

4年クラス委員 畠山 大輝

今後の生命科学科に望むこと

生命科学科 4 年畠山大輝です。はじめに生命科学科 30 周年を迎えられたことお祝い申し上げます。またそのような節目の年に寄稿の機会を与えられたこと光栄に思います。私からは「今後の生命科学科に望むこと」というテーマで書かせていただきます。3年次に行う実習の早期開始・期間延長についてです。3年生として実習を開始するまで座学の研究に関する話で具体的なイメージが湧かないという経験をしました。たとえば1年目には多くの空きコマが、1年および2年ではどちらも必修となる生化学と生理学と重複したカリキュラムがあります。これらを見直すことで、より研究者という目標を明瞭化して勉学に励むことのできる環境となれば良いかなと思います。

4年クラス委員 吉松 千尋

私からの現在の生命科学科の紹介

現在4年生の私は細胞ゲノム機能学教室で日々研究活動を行なっています。研究室配属された当初は3年生の頃までと環境がガラッと変わり慣れることに必死でした。しかし、教室の先生や先輩方と日々を過ごし、実験手技など学ぶことで、今では一人でも多くのことをできるようになり、毎日充実した研究活動を行なっています。

私が過ごしたこの4年間は、知らないことにたくさん触れ、自分の興味分野を探す良い日々だったなと感じます。医学部生命科学科ならではの、医学的な事象を含めて行われる講義は、基礎研究から臨床研究がある中で、自分がどういったことを研究していきたいか考えるととても良い場所だと感じています。